



高島平中央総合病院 診療外来担当表



平成21年12月1日現在

内 科

受付時間	月	火	水	木	金	土
9:00～12:30	○	○	○	○	○	○
14:00～17:00	○	○	○	○	○	×
17:30～19:00	○	○	○	○	○	×

外 科

受付時間	月	火	水	木	金	土
9:00～12:30	○	○	○	○	○	○
14:00～17:00	○	○	○	○	○	×
17:30～19:00	○	○	○	○	○	×

消化器科

受付時間	月	火	水	木	金	土
9:00～12:30	○	○	○	○	○	○
14:00～17:00	○	○	○	○	○	×
17:30～19:00	○	○	○	○	○	×

整形外科

受付時間	月	火	水	木	金	土
9:00～12:30	○	○※	○	○	○	○
14:00～17:00	○	○	○	○	○	×
17:30～19:00	○	○	○	○	○	×

※火曜午前受付11:30まで
●ペイン外来（予約制）月・水・金・土（午前のみ）

小児科

受付時間	月	火	水	木	金	土
9:00～12:30	○	○	○	○	○	○
14:00～17:00	○	○	○◇	○	○	×
17:30～19:00	○	○	○	○	○	×

◇第2・4週水曜午後…乳児検診（予約制）

眼 科

受付時間	月	火	水	木	金	土
9:00～12:30	○	○	○	○	○	○
14:00～17:00	○	○	○	○	○	×
17:30～19:00	×	×	×	×	×	×

耳鼻咽喉科

受付時間	月	火	水	木	金	土
9:00～12:30	○	○	○	○	○	○
14:00～17:00	○	○	○	○	○	×
17:30～19:00	×	×	×	×	×	×

注）新患受付…午前12:00まで 午後16:30まで

泌尿器科

受付時間	月	火	水	木	金	土
9:00～12:30	○	○	○	○	○	○
14:00～17:00	○	☆	×	☆	○	×
17:30～19:00	×	×	×	×	×	×

☆火曜・木曜（午後予約制）

皮膚科

受付時間	月	火	水	木	金	土
9:00～12:30	×	×	×	×	×	×
14:00～17:00	×	×	×	×	×	×
17:30～19:00	○	○	○	○	○	×

脳神経外科

受付時間	月	火	水	木	金	土
9:00～12:30	×	×	×	×	×	×
14:00～17:00	○	×	×	×	○	×
17:30～19:00	×	×	×	×	×	×

ご注意 ・都合により診療時間の変更・休診がございます。
・ご不明な点につきましては、各科外来にお問い合わせ下さい。

土曜日(午後)～日・祝日 救急診療体制

受付時間：24時間体制 診療科：内科医1名、外科医1名

※他の診療科につきましては代診の形をとらせていただいております。ご了解の上、診察いたします。



編集後記

毎年行われていますキャンドルサービスですが、初めて参加したときは患者さまからお叱りの声が出るのではないかと不安でした。ですが病室に行きキャンドルでお部屋を灯しプレゼントを患者さまにお渡ししますと、非常に喜んでくださり、私のほうが心温められ元気づけられました。

今回の写真は昨年撮ったものを掲載しました。

検査科 北澤 直美

“さくらんぼ” 高島平中央総合病院
Vol.3 2009.12

発行／高島平中央総合病院 院内主任会サービス向上チーム
発行日／2009年12月
〒175-0082 東京都板橋区高島平1-69-8
医療法人社団 明芳会 高島平中央総合病院
TEL.03-3936-7451（代表）
http://www.ims.gr.jp/takashimadaira-hosp/



さくらんぼ

高島平中央総合病院 2009年 冬 Vol.3

新型インフルエンザ
症状と予防

小児科医師 宮原 篤

今回の新型インフルエンザ（以下新型）ですが、2009年4月に見つかられてから一年もたっていないウイルスです。わかっていないこと、あやふやなことがいっぱいあります。今後もいろいろと変わってくるかもしれません。

今の新型の多くは軽症ですが、小児などでは急激に発症する肺炎など従来の季節性インフルエンザ（以下季節性）では考えられない症状・死亡例が一部報告されています。当科で経験したインフルエンザ肺炎患者の病状の重症度、進行度をみましても、季節性のものとは比較にならないほど重いものでした。季節性で起っていたインフルエンザ脳症も報告されています。



症 状 一般的には、季節性と同じ症状です。主な症状は、体温38度などの急な発熱、せき、のどの痛み、鼻水、倦怠感、筋肉痛、頭痛、下痢、嘔吐などで、季節性よりも軽症と考えられています。

一部にインフルエンザ肺炎やインフルエンザ脳症になる人がいます。新型のウイルスは肺の中で増殖することが知られており、これは季節性とは違った特徴です。ハイリスク群と考えられている人および危険な兆候を表1、表2に示します。表に挙げた人すべてがインフルエンザにかかるとう重症化するわけではありません。また、健康な方も重症化することもあります。

中面につづく

表1 重症化のリスク（厚生労働省）

慢性呼吸器疾患	慢性心疾患
糖尿病などの代謝性疾患	腎機能障害
ステロイド内服などによる免疫機能不全	妊婦
乳幼児	高齢者

（その他肥満・喫煙など）

表2 米国CDCが提唱する危険な兆候（一部改変）

成 人	小 児
インフルエンザ様症状改善後の再発熱や咳の悪化	
激しい、持続性の嘔吐	
呼吸困難や息切れ	呼吸が速い、息苦しそうにしている
胸部や腹部の痛みや圧迫感	顔色が悪い（土気色、青白いなど）
突然のめまい	水分摂取不良
混迷	反応が鈍い、呼びかけに答えられない意味不明の言動がみられる
	機嫌が悪く、抱っこされることを嫌がる

検査 今の日本ではインフルエンザの検査は迅速検査が行われていますが、これは100%の感度ではありません。発熱直後では感度はさらに下がりますし、ましてや発熱前の「超早期検査」は無意味です。

重要なのは、「インフルエンザ様の症状」や「危険な兆候」は必ずしもインフルエンザだけの症状ではないということです。小児では、細菌性髄膜炎などの救急疾患でも「危険な兆候」を示すことがあります。「検査をしてもらうため」あるいは「陰性であることを確認するため」に救急外来を受診すれば外来は混乱します。その中で、もし細菌性髄膜炎や本当のインフルエンザ肺炎・インフルエンザ脳症の患者さまがいたら、救える命も救えなくなってしまうかもしれません。救急外来では不要不急の受診は避けたほうがよいと思います。

治療 一番の治療は、何はともあれ安静と睡眠です。インフルエンザの治療というと、タミフル・リレンザが出てくると思いますが、必ずしも必須ということはありません（表3）。

6歳以上64歳以下で健康な人でのタミフル・リレンザの使用は現在のところ議論がありますが、基礎疾患がある人や重症例では処方するというのが共通の理解です。繰り返しますと、6歳以上で基礎疾患のない小児ではタミフル・リレンザは必ずしも必須ではないと言えます。また、流行状況や臨床症状で、迅速検査陰性または未検査でもインフルエンザと診断し処方することもあります。



以前、タミフルと異常行動の関連が疑われていましたが、インフルエンザ自体で異常行動を起こすことが知られています。いずれにせよお子さんの場合、インフルエンザであれば薬の有無に限らず2日間はそばにいてあげてください。

なお、0歳児にタミフル投与をする場合は、十分なインフォームドコンセント（説明と同意）の上行います。

治療証明（登校許可書）
学校保健安全法施行規則に依れば、季節性は出席停止の期間は「解熱後2日を経過するまで」で、新型は出席停止の期間は「治療するまで」となります。現時点では季節性に準じた基準にしているところが多いようです。しかし、この基準が作られたのはタミフル・リレンザができる前のものです。



表3 タミフル・リレンザの使用基準

	軽症の場合	重症の場合
妊娠中の人	タミフル	タミフル (タミフル耐性・タミフルが在庫切れの場合はリレンザ。)
0～5歳	タミフルまたはリレンザ	
5歳以下の子供の同居者 持病のある人 65歳以上 その他全ての人（日本国内）	タミフルまたはリレンザ	
上記には該当しない人（日本国外）	タミフルもリレンザも推奨しない	

（いずれも発熱後48時間以内に使用することが望ましい）

タミフルを使うと解熱後もウイルスを排出することが分かっています。他人に感染させない「友愛」の気持ちと体力回復の意味も込めて、解熱後少なくとも3日、できれば5日から1週間は休んでもいいと思います。

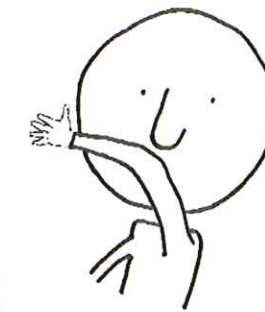
一部の会社や一部の私立学校で、家族がインフルエンザになったら無症状でも入社（登校）禁止というのがありますが、これは今のところは過剰反応といってもいいでしょう。

予防 これだけをすれば絶対安全、というものはありません。マスクで100%予防できるわけではありませんし、ワクチンをすれば絶対にかからないというものでもありません。

咳をするときはひじの内側で押さえる（咳エチケット）が大事です。手で押さえると、ウイルスが手について感染源になります。

図はCDCの“Cover your Cough”というポスターから引用しました。「咳にフタ（蓋）」とでも訳すのでしょうか？

インフルエンザウイルスは、手などについて伝染することもあります。流水で20秒以上またはアルコール消毒液での手洗いをしましょう。



図／CDCの“Cover your Cough”

患者の濃厚接触者（特定ハイリスク群のみ）にタミフル・リレンザなどの予防投与をすることがありますが、これは全額自費になります。もし、会社や学校が予防投与を指示するならば、費用を負担するのは当然でしょう。また、65歳以上の高齢者では肺炎球菌ワクチン（ニューモバックス）の接種も勧められます。



新型インフルエンザワクチン

新型インフルエンザワクチン（以下新型ワクチン）に関してはまだ不確定要素が多すぎるため、詳細を書くのは控えます。

国産の新型ワクチンに関しては他のワクチンと同時接種ができますが、輸入の新型ワクチンでは同時接種は差し控えるとしています。早晚、輸入のワクチンでも同時接種が可能になることが望まれます。

また、MRワクチンなどの生ワクチンを接種すると、同時接種以外であれば次のワクチンの接種までに27日以上間隔を空けなければなりません。ポリオワクチンと新型ワクチンの接種時期が重なるときは、ポリオワクチンの時期をずらす方法もあります。

当院では毎年12月に“キャンドルサービス”と“火の誓い”という行事を行っております。この行事の由来をご紹介します。

現在の板橋中央総合病院は昭和33年「医院」から「病院」に変わりました。この年のクリスマスに、入院中の患者さまに少しでも病気による苦痛が和らぎ、喜んでいただけたら…と、10人程の看護師が自分達のお金を出し合って、ささやかにキャンドルサービスを行ったところ、入院中の患者さまが非常に喜んでくださり、次第に盛大に行われるようになってまいりました。テレビや新聞などで報道されたこともございます。

現在ではIMS（イムス）グループすべての病院・施設で毎年行う重要な行事になっており、当高島平中央総合病院でも今年で37回目を迎えることができました。ここまで続けてきたこのキャンドルサービスも、途中からより意義のあるものにと姿を変え、第一部を職員が自らを振り返る厳粛なセレモニーに、第二部に患者さまへのキャンドルサービスとプレゼントに、と変わってまいりました。



キャンドルサービス



第一部：院長の許（もと）に灯った一つの小さな火が職員の手から手へ広がり、大きな光の輪となってこの場を照らしています。この灯りは「協力」、「強調」、「愛」を表しています。この言葉は病と闘っている患者さまと、私たち職員にとって忘れてはならない大切な言葉です。各職場の代表が「火の誓い」を行います。その誓いを私たち一人ひとりの誓いの言葉として心に刻み、燃やし続けて行きたいと考えております。

第二部：病室を灯し、入院されている患者さまにサンタさんから“お元気になっていただきたい”と願いを込めプレゼントをお渡ししています。

